

記入例

CO₂排出削減量計算シート

合計

1-1 高機能換気設備(消費電力量分)

CO₂排出削減量 t-CO₂/年

自動計算

1-2 高機能換気設備(熱回収量分)

CO₂排出削減量 t-CO₂/年

2 空調設備

CO₂排出削減量 t-CO₂/年

3 照明設備

CO₂排出削減量 t-CO₂/年

4 その他設備(電気系)

CO₂排出削減量 t-CO₂/年

5 その他設備(燃料系)

CO₂排出削減量 t-CO₂/年

6 任意様式

CO₂排出削減量 t-CO₂/年合計 CO₂排出削減量 t-CO₂/年

自動計算

セル: AE3

コメント: 【CO2排出削減量計算シート】

○CO2排出削減量の計算は、必ずこのシートを使用してください。

○設備ごとに、以下のシート(簡易版)に入力してください。

・高機能換気設備: 1-1 及び 1-2

・空調設備: 2

・照明設備: 3

・その他設備(電気系): 4

・その他設備(燃料系): 5

ただし、各シートにより難しい場合は、別シート「6任意様式」に入力してください。

○各シートの電気の排出係数は、中部電力(株)の今年度の各種届出用の調整後排出係数(0.452t-CO₂/千kWh)としています。

○CO2排出量の端数処理については、各シートごとに小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位としてください。

○提出書類は、各シートの印刷範囲のみで結構です。
(このコメント部分の印刷は不要)

○提出されるCO2排出削減量計算シートや各種申請書の責任は申請者が負うことになりますのご注意ください。

【合計シート】

○合計シートは、各シートに入力すると自動計算されます。
(合計シートには直接入力しない。)

○CO2排出削減量がマイナスの場合は、CO2排出量が増えることを示します。

○合計のCO2排出削減量が、プラス(0.1t-CO₂/年以上)になる必要があります。

記入例

1-1高機能換気設備
(消費電力量分)

更新前

更新前換気設備

枠外の記入方法を参考に赤字部分を記載してください

(消費電力)	(年間消費電力量)	(設置場所等)
28.5 W × 2 台 × 12 時間/日 × 313 日 =	214.09 kWh	事務棟 B会議室
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
合計	214.09 kWh	
214.09 kWh ÷ 1000 × 0.452 (排出係数) = 0.1 t-CO ₂ /年		

更新前のCO₂排出量

0.1 t-CO₂/年

自動計算

更新後

更新後高機能換気設備

(消費電力)	(年間消費電力量)	(設置場所等)
189 W × 2 台 × 12 時間/日 × 313 日 =	1,419.77 kWh	事務棟 B会議室
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 =	0.00 kWh	
合計	1,419.77 kWh	
1,419.77 kWh ÷ 1000 × 0.452 (排出係数) = 0.6 t-CO ₂ /年		

更新後のCO₂排出量

0.6 t-CO₂/年

自動計算

更新前のCO₂排出量

0.1 t-CO₂/年

更新後のCO₂排出量

0.6 t-CO₂/年

CO₂排出削減量

-0.5 t-CO₂/年

自動計算

セル: AA1

コメント:【1－1高機能換気設備(消費電力量分)(簡易版)】

○更新前(撤去する換気扇等の設備がある場合のみ入力)と更新後に、それぞれ必要事項を入力し、CO₂排出削減量を計算してください。

○消費電力について、カタログ等の「強」の値を入力してください(カタログ等を添付)。

補足:カタログ等に50Hzと60Hzの記載がある場合は、60Hzの値を入力してください(以下同様のため以降の記載省略)。

補足:カタログ等について、表紙及び該当部分(コピー可、該当部分にマーカ等)を添付してください(以下同様のため以降の記載省略)。

補足:更新前のカタログ等がない場合は、類似設備からメーカー等の消費電力を証明する書類を添付してください(以下同様のため以降の記載省略)。

○時間数について、店舗の場合は13時間、事務所の場合は12時間を参考に、実態に合わせて入力してください。

なお、原則として、更新前と更新後は同じ値としてください。

○日数について、店舗の場合は365日、事務所の場合は313日を参考に、実態に合わせ入力してください。

なお、原則として、更新前と更新後は同じ値としてください。

○設備場所等について、複数の設備を識別できるように入力してください(以下同様のため以降の記載省略)。

例:A棟・北面・東側から1台目

○この様式により難しい場合は、別シート「6任意様式」を使用してください。

記入例

1-2高機能換気設備
(熱回収量分)

更新前

更新前換気設備

枠外の記入方法を参考に赤字部分を記載してください

(換気量)	(熱交換率)	(熱交換換気量)	(非熱交換換気量)	(設置場所等)
280 m ³ /h × 2 台 × 0 % =	0.0 m ³ /h	560.0 m ³ /h	事務棟 B会議室	
m ³ /h × 台 × % =	0.0 m ³ /h	0.0 m ³ /h		
m ³ /h × 台 × % =	0.0 m ³ /h	0.0 m ³ /h		
m ³ /h × 台 × % =	0.0 m ³ /h	0.0 m ³ /h		
m ³ /h × 台 × % =	0.0 m ³ /h	0.0 m ³ /h		
m ³ /h × 台 × % =	0.0 m ³ /h	0.0 m ³ /h		
合計	560.0 m ³ /h			

更新前の非熱回収換気量

560.0 m³/h

自動計算

更新後

更新後高機能換気設備

(換気量)	(熱交換率)	(熱交換換気量)	(非熱交換換気量)	(設置場所等)
450 m ³ /h × 2 台 × 56 % =	504.0 m ³ /h	396.0 m ³ /h	事務棟 B会議室	
m ³ /h × 台 × % =	0.0 m ³ /h	0.0 m ³ /h		
m ³ /h × 台 × % =	0.0 m ³ /h	0.0 m ³ /h		
m ³ /h × 台 × % =	0.0 m ³ /h	0.0 m ³ /h		
m ³ /h × 台 × % =	0.0 m ³ /h	0.0 m ³ /h		
m ³ /h × 台 × % =	0.0 m ³ /h	0.0 m ³ /h		
合計	396.0 m ³ /h			

更新後の非熱回収換気量

396.0 m³/h

自動計算

更新前の非熱回収換気量

560.0 m³/h

更新後の非熱回収換気量

396.0 m³/h

=

非熱回収換気削減量

164.0 m³/h

自動計算

非熱回収換気削減量 年間熱損失量係数 (排出係数)
 164.0 m³/h × 11.9 kWh・h/m³ ÷ 1000 × 0.452

=

CO₂排出削減量(熱回収量分)0.9 t-CO₂/年

自動計算

【更新後の必要換気量の計算】

(利用人数)	(必要換気量)	(参考:床面積)	(設置場所等)
30 人 × 30 m ³ /h =	900.0 m ³ /h	120 m ²	事務棟 B会議室
0 人 × 30 m ³ /h =	0.0 m ³ /h	0 m ²	
0 人 × 30 m ³ /h =	0.0 m ³ /h	0 m ²	
0 人 × 30 m ³ /h =	0.0 m ³ /h	0 m ²	
0 人 × 30 m ³ /h =	0.0 m ³ /h	0 m ²	

セル: AA1

コメント:【1-2高機能換気設備(熱回収量分)(簡易版)】

○更新前(撤去する換気扇等の設備がある場合のみ入力)と更新後に、それぞれ必要事項を入力し、CO₂排出削減量を計算してください。

また、更新後の必要換気量について、要件である1人あたり毎時30m³以上になっていることを確認するため、利用人数、床面積を入力し、必要換気量を計算してください。

○換気量について、カタログ等の「強」の値を入力してください。また、給気と排気で量が異なる場合は小さい値を入力してください(カタログ等を添付)。

○熱交換率について、カタログ等の温度交換率を入力してください(カタログ等を添付)。

補足:更新前が非熱交換型の換気扇の場合について、熱交換率は「0」を入力してください。

○年間熱損失量係数は、年間熱損失量(kJ/kg×h)×空気密度(kg/m³)×1/3600(kWh/kJ)です。

店舗の場合は「17.3」を、事務所の場合は「11.9」を入力(選択)してください。

店舗や事務所以外の場合は、設置場所が類似する方の値を入力してください。

※名古屋の気温・湿度からJISに準拠して算出した係数

年間熱排出量:51,827(店舗)

年間熱排出量:35,560(事務所)

空気密度:1.2

○この様式により難しい場合は、別シート「6任意様式」を使用してください。

記入例

2空調設備

更新前

更新前空調設備

枠外の記入方法を参考に赤字部分を記載してください

(消費電力)	(負荷率)	(年間消費電力量)	(設置場所等)
4,500 W × 1 台 × 12 時間/日 × 313 日 × 34 % =		5,746.68 kWh	事務棟 B会議室
4,500 W × 1 台 × 12 時間/日 × 313 日 × 34 % =		5,746.68 kWh	事務棟 執務室
W × 台 × 時間/日 × 日 × % =		0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 × % =		0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 × % =		0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 × % =		0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 × % =		0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 × % =		0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 × % =		0.00 kWh	
合計		11,493.36 kWh	

$$11,493.36 \text{ kWh} \div 1000 \times 0.452 \text{ (排出係数)} = 5.2 \text{ t-CO}_2/\text{年}$$

更新前のCO₂排出量5.2 t-CO₂/年

自動計算

更新後

更新後空調設備

(消費電力)	(負荷率)	(年間消費電力量)	(設置場所等)
4,120 W × 1 台 × 12 時間/日 × 313 日 × 34 % =		5,261.40 kWh	事務棟 B会議室
4,120 W × 1 台 × 12 時間/日 × 313 日 × 34 % =		5,261.40 kWh	事務棟 執務室
W × 台 × 時間/日 × 日 × % =		0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 × % =		0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 × % =		0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 × % =		0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 × % =		0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 × % =		0.00 kWh	
W × 台 × 時間/日 × 日 × % =		0.00 kWh	
合計		10,522.81 kWh	

$$10,522.81 \text{ kWh} \div 1000 \times 0.452 \text{ (排出係数)} = 4.8 \text{ t-CO}_2/\text{年}$$

更新後のCO₂排出量4.8 t-CO₂/年

自動計算

更新前のCO₂排出量5.2 t-CO₂/年更新後のCO₂排出量4.8 t-CO₂/年

=

CO₂排出削減量

自動計算

0.4 t-CO₂/年

○更新前と更新後に、それぞれ必要事項を入力し、CO2排出削減量を計算してください。

○年間消費電力量について、カタログ等に期間合計(年間)の消費電力量の記載がある場合は、年間消費電力量の欄のみに直接入力(数式を削除)しても結構です(カタログ等を添付)。

○消費電力について、カタログ等の暖房時の値を入力してください(カタログ等を添付)。

補足:暖房能力ではありません。

○時間数について、店舗の場合は13時間、事務所の場合は12時間を参考に、実態に合わせて入力してください。

なお、原則として、更新前と更新後は同じ値としてください。

○日数について、店舗の場合は365日、事務所の場合は313日を参考に、実態に合わせ入力してください。

なお、原則として、更新前と更新後は同じ値としてください。

○負荷率について、店舗の場合は39%、事務所の場合は34%を参考に、実態に合わせて入力してください。

○更新後の設備の要件であるパッケージエアコン等トップランナー基準の対象設備はその基準値以上であること、ガスヒートポンプ式エアコンはグリーン購入法の「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」で示すガスエンジンヒートポンプ式空気調和機のAPF_p値以上であること、ルームエアコンは国立研究開発法人建築研究所が示す冷房効率区分(い)を満たすことを証明する書類(カタログ等)を添付してください。

○この様式により難しい場合は、別シート「6任意様式」を使用してください。

記入例

3照明設備

更新前

更新前照明設備

枠外の記入方法を参考に赤字部分を記載してください

(消費電力)

40.0	W	×	6	台	×	12	時間/日	×	313	日	=	901.44	kWh	(年間消費電力量)	(設置場所等)	事務棟 B会議室
40.0	W	×	12	台	×	12	時間/日	×	313	日	=	1,802.88	kWh			事務棟 廊下
	W	×		台	×		時間/日	×		日	=	0.00	kWh			
	W	×		台	×		時間/日	×		日	=	0.00	kWh			
	W	×		台	×		時間/日	×		日	=	0.00	kWh			
	W	×		台	×		時間/日	×		日	=	0.00	kWh			
	W	×		台	×		時間/日	×		日	=	0.00	kWh			
	W	×		台	×		時間/日	×		日	=	0.00	kWh			
	W	×		台	×		時間/日	×		日	=	0.00	kWh			

合計 2,704.32 kWh

2,704.32 kWh ÷ 1000 × 0.452 (排出係数) = 1.2 t-CO₂/年更新前のCO₂排出量1.2 t-CO₂/年

自動計算

更新後

更新後照明設備

自動計算

(消費電力)

36.3	W	×	6	台	×	12	時間/日	×	313	日	=	818.06	kWh	(年間消費電力量)	(設置場所等)	事務棟 B会議室
26.3	W	×	10	台	×	12	時間/日	×	313	日	=	987.83	kWh			事務棟 廊下
	W	×		台	×		時間/日	×		日	=	0.00	kWh			
	W	×		台	×		時間/日	×		日	=	0.00	kWh			
	W	×		台	×		時間/日	×		日	=	0.00	kWh			
	W	×		台	×		時間/日	×		日	=	0.00	kWh			
	W	×		台	×		時間/日	×		日	=	0.00	kWh			
	W	×		台	×		時間/日	×		日	=	0.00	kWh			
	W	×		台	×		時間/日	×		日	=	0.00	kWh			

合計 1,805.88 kWh

1,805.88 kWh ÷ 1000 × 0.452 (排出係数) = 0.8 t-CO₂/年更新後のCO₂排出量0.8 t-CO₂/年

自動計算

更新前のCO₂排出量1.2 t-CO₂/年更新後のCO₂排出量0.8 t-CO₂/年

=

CO₂排出削減量0.4 t-CO₂/年

自動計算

セル: AA1

コメント:【3照明設備(簡易版)】

○更新前と更新後に、それぞれ必要事項を入力し、CO2排出削減量を計算してください。

○消費電力について、カタログ等の値を入力してください(カタログ等を添付)。

○時間数について、店舗の場合は13時間、事務所の場合は12時間を参考に、実態に合わせて入力してください。

なお、原則として、更新前と更新後は同じ値としてください。

○日数について、店舗の場合は365日、事務所の場合は313日を参考に、実態に合わせ入力してください。

なお、原則として、更新前と更新後は同じ値としてください。

○更新後の要件であるLED等トップランナー基準の対象設備はその基準値以上であることを証明する書類(カタログ等を添付してください)。

○この様式により難しい場合は、別シート「6任意様式」を使用してください。